



CG-WLCB54GSF

取扱説明書



作業の流れ

PART1  
まず準備が必要

1

PART2  
ユーティリティを  
インストールしよう

2

PART3  
無線 LAN の  
設定をしよう

3

PART4  
ユーティリティの  
画面について

4

PART5  
トラブルや疑問が  
あったら

5

付録

付録

パソコンのデータを悪意ある第三者から守るために、各種セキュリティ機能を使用してお使いください。セキュリティの設定方法は本書の「セキュリティを設定する」(P.39)をご覧ください。



## はじめにお読みください

このたびは、「CG-WLCB54GSF」をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。本製品はPC Card Standard (CardBus) Type II用IEEE802.11b、IEEE802.11g対応の無線LANカードです。本書は、本製品を正しくご利用いただくための手引きです。必要なときにいつでもご覧いただけるように、大切に保管してください。

CG-WLBARGSFおよびCG-WLCB54GSFは株式会社コレガの商品名です。WBC WLBARGSFおよびWBC WLCB54GSFは西日本電信電話株式会社の商品名です



### 安全にお使いいただくために

必ずお守りください

安全にご使用いただくために必ずお読みください

本書には、あなたと他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本製品を安全にお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。その表示と図記号の意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本書をお読みになってください。

#### 本書中のマーク説明

	<b>警告</b>	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
	<b>注意</b>	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。
	<b>お願い</b>	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、本製品の本来の性能を発揮できなかったり、機能停止を招く内容を示しています。
	<b>注意</b>	操作中に気を付けていただきたい内容です。必ずお読みください。
	<b>メモ</b>	補足事項や、参考となる情報を説明しています。

- ご使用の際は取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。
- 本製品(取扱説明書、ソフトウェアを含む)は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠しておりません。また海外で保守サービスおよび技術サービスは行っておりません。国内で使用する場合でも、日本語環境によるご利用のみのサービスとなっております。  
This product is designed for only use in Japan and we are not offering maintenance service and technical service of this product in any foreign country. It works properly in only Japanese Operating System.
- 本製品の使用に起因してお客様またはその他第三者に生じた結果的損害、付随的損害および逸失利益に関しましては、弊社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本製品を分解したり改造したりすることは、絶対に行わないでください。
- 本書に他社商品の記載がある場合、これは参考を目的としたものであり、記載商品の使用を強制するものではありません。
- 本書の内容につきましては万全を期しておりますが、お気づきの点がございましたら、本製品に添付のNTT通信機器お取扱相談センタシールをご覧ください。お取扱相談センタへお申しつけください。
- この取扱説明書、ハードウェア、ソフトウェアおよび外観の内容について将来予告なしに変更することがあります。

### **警告**

- 万が一、煙が出ている、変なにおいがするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。すぐに電源アダプタをコンセントから抜いて、煙が出なくなるのを確認して、本製品に添付のNTT通信機器お取扱相談センタシールをご覧ください。お取扱相談センタに修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。
- 本製品・電源アダプタをぬれた手でさわったり、水をかけないようにご注意ください。火災・感電の原因となることがあります。

**警告**

- 万が一、本製品を落としたり、本製品を破損した場合は、電源アダプタをコンセントから抜いて、本製品に添付のNTT通信機器お取扱相談センターシールをご覧になり、お取扱相談センターに修理をご依頼ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。
- 万が一、内部に水などがに入った場合は、すぐに電源アダプタをコンセントから抜いて、本製品に添付のNTT通信機器お取扱相談センターシールをご覧になり、お取扱相談センターにご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。
- 本製品の通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどの異物を差し込んだり、落としたりしないでください。万が一、異物が入った場合は、すぐに電源アダプタをコンセントから抜いて、本製品に添付のNTT通信機器お取扱相談センターシールをご覧になり、お取扱相談センターにご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。
- 本製品を分解・改造したりしないでください。火災・感電の原因となることがあります。内部の点検・修理は本製品に添付のNTT通信機器お取扱相談センターシールをご覧になり、お取扱相談センターにご依頼ください。
- 風呂場や加湿器のそばなど、湿度の高いところでは使用しないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- AC100Vの商用電源以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- めくれた手で電源アダプタを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
- 電源アダプタのコードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、束ねたりしないでください。また、重い物を乗せたり、加熱したりするとコードが破損し、火災・感電の原因となることがあります。電源アダプタのコードが傷んだら、本製品に添付のNTT通信機器お取扱相談センターシールをご覧になり、お取扱相談センターに修理をご依頼ください。

- テーブルタップや分岐コンセント、分岐ソケットを使用した、タコ足配線はしないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- 電源アダプタのプラグにほこりが付着していないことを確認してコンセントに差し込んでください。また、半年から1年に1回は、電源アダプタのプラグを点検してください。ほこりにより火災・感電の原因となることがあります。なお、点検は本製品に添付のNTT通信機器お取扱相談センターシールをご覧になり、お取扱相談センターにご相談ください。
- 本製品のそばに花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水の入った容器、または小さな金属類を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となることがあります。
- 電源アダプタ(電源プラグ)を電源コンセントに差し込むときは、確実に差し込んでください。電源アダプタの刃に金属などが触れると、火災・感電の原因となることがあります。
- 電源アダプタは、必ず付属のものをお使いになり、それ以外のものは絶対にお使いにならないでください。
- 電源アダプタのコードが傷んだ(芯線の露出、断線など)状態のまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。すぐに電源アダプタを抜いて、本製品に添付のNTT通信機器お取扱相談センターシールをご覧になり、お取扱相談センターに修理をご依頼ください。
- 異常音がしたり、本製品が熱くなった状態のまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。すぐに電源アダプタをコンセントから抜いて、本製品に添付のNTT通信機器お取扱相談センターシールをご覧になり、お取扱相談センターに点検をご依頼ください。
- 本製品を医療機器や高い安全性が要求される用途では使用しないでください。人が死亡または重傷を負う可能性があり、社会的に大きな混乱が発生する恐れがあります。

## ⚠ 注意

- 直射日光の当たるところや、暖房機器・ボイラーなどのため著しく温度が上昇するところには置かないでください。内部の温度が上がり、火災の原因となることがあります。
- 調理台のそばなど油飛びや湯気が当たるような場所、ほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。
- 本製品や電源アダプタを熱器具に近づけないでください。本製品やコードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- お近くに雷が発生したときは、電源アダプタをコンセントから抜いてご使用を控えてください。雷によっては、火災・感電の原因となることがあります。
- 本製品の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと本製品の内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。次のような使い方はしないでください。
  - ・ じゅうたんや布団の上に置く
  - ・ テーブルクロスなどをかける
  - ・ 本棚、タンスの中、押入の中などの風通しの悪い場所に置く
- 長期間ご使用にならないときは、電源アダプタをコンセントから抜いてください。
- 本製品に乗らないでください。特に小さなお子様のいる家庭ではご注意ください。壊れてけがの原因となることがあります。
- 添付のCD-ROMをオーディオ用プレイヤーで使用しないでください。大音量によりスピーカの破損や耳の障害の原因となることがあります。
- お手入れをするときは、安全のため必ず電源アダプタをコンセントから抜いてください。

4

- 高い信頼性を要求される、幹線通信機器や電算機システムでは使用しないでください。社会的に大きな混乱が発生する恐れがあります。

## STOP お願い

- 次のような場所でご使用や保管はしないでください。
  - ・ 急激な温度変化のある場所（結露するような場所）
  - ・ 湿気の多い場所や、水などの液体がかかる場所
  - ・ 振動の激しい場所
  - ・ 以下の環境条件に適応しない場所  
温度：0～40℃  
湿度：90%未満（結露なきこと）
- 本製品・ケーブルは、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊する恐れがあります。コネクタの接点部分、ポート、部品などを素手で触らないでください。
- 落としたり、強い衝撃を与えないでください。故障の原因となることがあります。
- ベンジン、シンナー、アルコールなどでふかないでください。変色や変形の原因となることがあります。汚れがひどいときは薄い中性洗剤をつけた布をよくしぼってよごれをふき取り、やわらかい布でからぶきしてください。
- 電気機器・AV・OA機器など磁気を帯びているところや電磁波が発生しているところに置かないでください（電子レンジ、スピーカー、テレビ、ラジオ、蛍光灯、電気こたつ、インバータエアコン、電磁調理器など）。
  - ・ 磁気や電気雑音の影響を受けると雑音が大きくなったり、通信ができなくなることがあります（特に電子レンジ使用時には影響を受けます）。
  - ・ テレビ・ラジオなどに近いと受信障害の原因となったり、テレビ画面が乱れることがあります。
  - ・ 放送局や無線局などが近く、雑音等が大きいときは、本製品の設置場所を移動してみてください。

5

**STOP** お願い

- 硫化水素が発生する場所(温泉地)などでは、本製品の寿命が短くなる場合があります。
- 製氷倉庫など特に温度が下がるところに置かないでください。本製品が正常に動作しない場合があります。
- 本製品をご使用中、電源アダプタをさわると温かく感じる場合がありますが、故障ではありませんので、安心してご使用ください。
- 管理者パスワードやネットワーク名(ESSID)は、必ず変更してください。
  - ・ 管理者パスワードを変更しないと、ネットワーク上の誰からでも本製品の設定を行うことができ、セキュリティの面から非常に危険です。
  - ・ 無線LANのセキュリティの設定および無線アクセスポイントのアクセス制限の設定は必ず行ってご使用ください。無線LANのセキュリティ設定を行っていない場合は、第三者により通信の内容を盗み見られることや、お客さまのパソコンに不正に侵入される可能性がありますので、本製品をご利用時には、お客さま自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行うことをお勧めいたします。本製品のセキュリティの設定に関する詳細は、取扱説明書(本書)等をご覧ください。
- 周囲の環境(壁、家具等)によって使用範囲が狭くなる場合があります。

**電波に関するご注意**

本製品を下記のような状況でご使用になることはおやめください。  
また設置の前に、「安全にお使いいただくために」を必ずお読みください。

- ・ 心臓ペースメーカーの近くで、本製品をご使用にならないでください。心臓ペースメーカーに電磁妨害を及ぼし、生命の危険があります。
- ・ 医療機器の近くで、本製品をご使用にならないでください。医療機器に電磁妨害を及ぼし、生命の危険があります。
- ・ 電子レンジの近くで、本製品をご使用にならないでください。電子レンジによって、本製品の無線通信への電磁妨害が発生します。

この機器の製品仕様に記載してある使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を要する無線局)及び特定小電力無線局(免許を要しない無線局)並びにアマチュア無線局(免許を要する無線局)が運用されています。

- 1 この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局、アマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
- 2 万が一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するか、電波の発射を停止した上、添付のNTT通信機器お取扱相談センタシールに記載されている連絡先にご連絡いただき、混信回避のための処置(例:パーティションの設置など)についてご相談してください。
- 3 その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きたときは、お取扱相談センタ(添付のNTT通信機器お取扱相談センタシールに記載)へお問い合わせください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。  
取扱説明書に従って正しく取り扱いをしてください。

## 無線 LAN 製品ご使用における セキュリティに関するご注意

無線LANでは、LANケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコン等と無線アクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続が可能であるという利点があります。その反面、電波はある範囲内であれば障害物(壁等)を超えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

### ●通信内容を盗み見られる

悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、

- ・ID やパスワード又はクレジットカード番号等の個人情報
- ・メールの内容などの通信内容を盗み見られる可能性があります。

### ●不正に侵入される

悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、

- ・個人情報や機密情報を取り出す(情報漏洩)
- ・特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す(なりすまし)
- ・傍受した通信内容を書き換えて発信する(改ざん)
- ・コンピュータウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する(破壊)などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線LANカードや無線アクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っていますので、無線LANのセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

セキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を十分理解した上で、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをお勧めします。

## 本書の読みかた

本書で使用している記号や表記には、次のような意味があります。

### ●表記について

本製品	CG-WL0B54GSF のことです。
「 」-「 」-「 」	「 」で囲まれた項目を順番に選択することを示します。
[ ]	[ ]で囲まれた文字は、画面上のボタンを表します。 例： <input type="button" value="OK"/> → [OK]

### ●正式名称について

本書で使用しているソフトウェア名の正式名称は以下のとおりです。

Windows® ----- Microsoft® Windows® Operating system  
Windows® XP ----- Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system および Microsoft® Windows® XP Professional operating system  
Windows® 2000 -- Microsoft® Windows® 2000Professional operating system  
Windows® Me ---- Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system  
Windows® 98SE -- Microsoft® Windows® 98 Second Edition operating system

### ●イラスト、画面について

本文中に記載のイラストや画面は、実際と多少異なることがあります。

## 作業の流れ

本書では、本製品を使って無線LANに接続するまでの作業をPARTに分けて説明しています。各PARTでの作業は次のとおりです。順番に読んで、作業を進めてください。

### PART1

#### まず準備が必要

- ① 添付品の内容を確認しよう
- ② ご使用のパソコンのシステム(環境)を確認しよう
- ③ 接続方法を決めよう  
アクセスポイントを介した「Infrastructure(インフラストラクチャ)モード」・パソコン同士で直接通信を行う「Ad-Hoc(アドホック)モード」のいずれかの接続方法を決めます。
- ④ 各部の名称と機能を覚えよう

### PART2

#### ユーティリティをインストールしよう

- ① ユーティリティをインストールする  
添付のCD-ROMからユーティリティをインストールします。使用するOSに対応した箇所をご覧ください。
- ② 本製品をパソコンに挿し込む  
本製品をパソコンのPCカードスロットに挿し込み、ドライバをインストールします。
- ③ 無線ユーティリティを起動する  
本製品のユーティリティを起動して、本製品がパソコンに正常に認識されているかどうか確認します。

### PART3

#### 無線LANの設定をしよう

- ① パソコンのネットワーク設定を確認する
- ② セキュリティを設定する  
本製品には、ご使用のパソコンのデータを悪意ある第三者より守るための各種セキュリティ機能があります。セキュリティ機能を設定してお使いください。

ここまでの作業が終われば無線LANに接続できるようになります。以降は、必要に応じてご覧ください。

### PART4

#### ユーティリティの画面について

本製品のユーティリティ画面についての説明です。

### PART5

#### トラブルや疑問があったら

PART3までの作業で無線LANに接続できなかった場合には、このPARTを読んで解決方法を探してください。

### 付録

#### 付録

本取扱説明書内で使われている用語集や本製品の工場出荷時の設定に関する説明があります。



## 目次

はじめにお読みください	表紙裏
安全にお使いいただくために	表紙裏
電波に関するご注意	7
無線LAN製品ご使用におけるセキュリティに関するご注意	8
本書の読みかた	9
作業の流れ	10

### PART1 まず準備が必要 ----- 14

添付品の内容を確認しよう	14
ご使用のパソコンのシステム(環境)を確認しよう	15
接続方法を決めよう	15
■無線ルータやアクセスポイントを使ってインターネットに接続する なら「Infrastructure(インフラストラクチャ)モード」	16
■パソコン同士でファイルのやり取りをするだけなら 「Ad-Hoc(アドホック)モード」	16
■無線LANのセキュリティ対策について	17
各部の名称と機能を覚えよう	18

### PART2 ユーティリティをインストールしよう -- 20

ユーティリティをインストールする	20
■ユーティリティのインストール	20
本製品をパソコンに挿し込む	25
■本製品をパソコンに挿し込む時の注意	25
■ドライバのインストール	25
無線ユーティリティを起動する	28
本製品を使わないときには	30
■本製品をパソコンから取り外す	30

### PART3 無線LANの設定をしよう ----- 31

パソコンのネットワーク設定を確認する	31
■インターネットに接続するとき	31
■他のパソコンとファイルやプリンタのを共有するとき	37
■「Ad-Hoc(アドホック)モード」で使うとき	38

セキュリティを設定する	39
■無線LANのセキュリティについて	39
■ESSIDを設定する	40
■WEPを設定する	41
■WPAを設定する	43

### PART4 ユーティリティの画面について --- 48

ユーティリティを起動しよう	48
「設定」画面	49
「状態」画面	51
「オプション」画面	53
「バージョン情報」画面	55

### PART5 トラブルや疑問があったら ----- 56

解決のステップ	56
取扱説明書を再確認する。管理者に確認する	57
Q&A	57
■本製品のユーティリティがインストールできない	57
■「デバイスマネージャ」に本製品が正しく表示されない	58
■「デバイスマネージャ」で「×」が付く	59
■ユーティリティを削除するには?	59
■通信ができない	61
■ユーティリティが表示されず、Windowsの設定画面が表示される (Windows XPのみ)	62
■より安定した通信をするには?	63
■通信速度が遅い	63
■「マイネットワーク」に他のパソコンが表示されない	64
■ホットスポットサービスを利用するには?	65

### 付録 ----- 66

用語集	66
製品仕様	69
工場出荷時の設定	70
本製品のお問い合わせについて	70
おことわり	71

## PART 1 まず準備が必要

### 添付品の内容を確認しよう

本製品のパッケージには、次のものが同梱されています(下記以外に添付紙が同梱されている場合があります)。お買い上げ商品についてご確認ください、万が一不足するものがございましたら、お手数ですがご購入された販売店まで連絡ください。



CG-WLCB54GSF 本体



ユーティリティディスク  
(CD-ROM 1枚)



取扱説明書(本書)



電波干渉注意ラベル(1枚)



保証書



NTT通信機器お取扱相談  
センターシール(1枚)

**メモ** CG-WLBARGSFとのセットをお買い上げの場合は、CG-WLBARGSFの取扱説明書の「同梱品一覧」をご覧ください。

### ご使用のパソコンのシステム(環境)を確認しよう

本製品をご使用になる場合、以下の条件を満たしたパソコンのシステム(環境)が必要となります。

- 以下の条件を満たしたパソコン
  - ・DOS/V、またはPC98-NXシリーズ
  - ・CD-ROMドライブを搭載している
  - ・CardBus対応のPCカードスロット(PCMCIA TYPE II)を搭載している
- 以下のOSのいずれかがインストールされているパソコン
  - ・Windows XP Home Edition(SP2、SP1)
  - ・Windows XP Professional(SP2、SP1)(32bit)
  - ・Windows 2000(SP4)
  - ・Windows Me
  - ・Windows 98 SE

### 接続方法を決めよう

本製品は、IEEE802.11g 規格、IEEE802.11b 規格に対応したワイヤレス(無線LAN)通信アダプタです。IEEE802.11g 規格、IEEE802.11b 規格に対応した無線ルータ、無線アクセスポイントと組み合わせることで、無線ネットワークを構築することができます。また、同じ規格の無線アダプタ間で通信をすることもできます。次の例を参考にして本製品とパソコンの接続方法を決めてください。

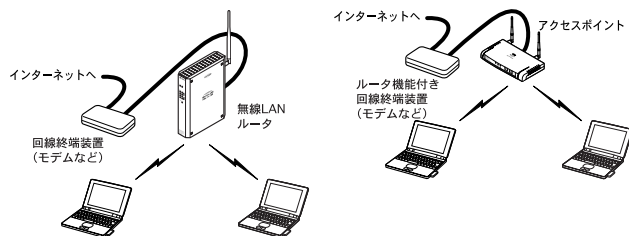
**メモ** 本製品は、各社の無線LAN 機器との間で相互接続性を確保していますが、個別製品の接続可否については、お使いの機器の製造・販売元にお問い合わせください。

## ■無線ルータやアクセスポイントを使ってインターネットに接続するなら「Infrastructure (インフラストラクチャ) モード」

「インターネット接続を複数のパソコンで共有したい」「ケーブルなしでインターネットに接続したい」といった場合には、無線ルータまたはアクセスポイントを使ってインターネット接続をします。このときは「Infrastructure (インフラストラクチャ)モード」にします。

接続イメージ図

- 無線LANルータと接続する場合
- アクセスポイントと接続する場合

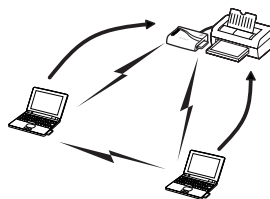


**メモ** 本製品に付属の添付品以外の機器については、別途ご用意ください。

## ■パソコン同士でファイルのやり取りをするだけなら「Ad-Hoc (アドホック) モード」

「離れた場所にあるパソコン同士でファイル交換ができればいい」という場合には、アクセスポイントは不要です。次の図のように、無線LAN機能があるパソコン同士で直接通信をします。このときは「Ad-Hoc (アドホック) モード」にします。

接続イメージ図



**メモ** 本製品に付属の添付品以外の機器については、別途ご用意ください。

## ■無線 LAN のセキュリティ対策について

無線LANでは電波を使って通信を行うため、電波が届く範囲であれば、通信内容を傍受されたり、不正侵入されたりする恐れがあります。このようなことがないように、次のようなセキュリティ機能を用意しています。設定を行いたい場合は、PART3 の「無線LAN の設定をしよう」「セキュリティを設定する」(P.39)をご覧ください。

- ・通信をグループ化する。  
ESSID を設定する。
- ・通信内容を暗号化する。  
WEP (暗号キー) を設定する。  
WPA (高度な暗号キー) を設定する。

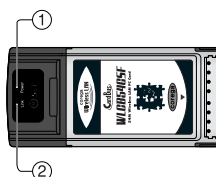
**メモ** 本製品の工場出荷時の設定は、右表のとおりです。

項目	出荷時設定
ESSID	corega
暗号化	無効
認証方式	Open System

1

## 各部の名称と機能を覚えよう

(表面)



① Power LED (緑)

② Link LED (緑)

### ●Windows XP/2000の場合

Power LED Link LED	交互に点滅	通信相手先を検索中です。
Power LED Link LED	同時に点滅	通信相手先と正常にリンクしている状態です。
Power LED Link LED	速めの点滅 速めの点滅	通信中です。
PowerLED Link LED	点滅 消灯	本製品を取り外すことができます。

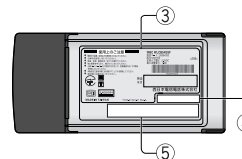
### ●Windows Me/98SEの場合

Power LED Link LED	交互に点滅	通信相手先を検索中です。
Power LED Link LED	同時に点滅	通信相手先と正常にリンクしている状態です。
Power LED Link LED	点滅 高速点滅	通信中です。
PowerLED Link LED	消灯 消灯	本製品を取り外すことができます

**メモ** WindowsXP以外のOSを使用して、「本製品の省電力モード」の設定を「速度優先」または「最大」に設定した場合、通信待機状態が続くとLink LEDが消灯します。

18

(裏面)



③ 製品ラベル

本製品を安全にご使用いただくための重要な情報が記載されておりますので、必ずお読みください。

④ MACアドレスラベル

本製品のMACアドレスが記載されています。

⑤ シリアル番号ラベル

本製品のシリアル番号とリビジョンが記載されています。シリアル番号とリビジョンは、お取扱相談センタへの問い合わせの際に必要になります。

**メモ** 本製品裏面の製品ラベルに記載されている **2.4G/OFDM** は次の内容を意味します。

使用周波数帯域	2.4GHz 帯
伝送方式	DS-SS 方式/OFDM方式
想定干渉距離	40m 以下
周波数変更の可否	全帯域を使用し、かつ「構内局」あるいは「特小局」、「アマチュア局」帯域を回避可能

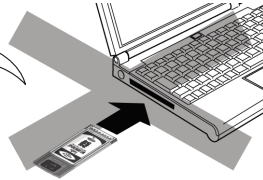
1

19

## PART2 ユーティリティをインストールしよう

**注意** 本製品をパソコンに接続する前に、必ず付属のユーティリティディスクをご使用になり、ユーティリティをインストールしてください。

ユーティリティのインストールが完了し、パソコンを再起動させるまで、本製品をパソコンに挿し込まないでください。



**注意** CG-WLCB54GSF以外の無線LANアダプタを設定済みのパソコンに、CG-WLCB54GSFをインストールした場合、既に設定済みの無線LANアダプタが使用できなくなることがあります。この場合、ドライバを再インストールするなどの作業が必要ですのでご注意ください。

### ユーティリティをインストールする

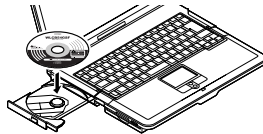
#### ■ユーティリティのインストール

本製品を使用するためにユーティリティをインストールします。ここでは、Windows XPの画面を使用して説明しています。基本的な操作は、Windows XP/2000/Me/98SEで共通です。差異のある操作等に関しては、該当の記載内容をご覧ください。

**注意**

- Windows XPの場合は、「コンピュータの管理者」または同等の権限をもつユーザ名でログインしてください。
- Windows 2000の場合は、「Administrator」またはAdministratorsグループのユーザ名でログインしてください。

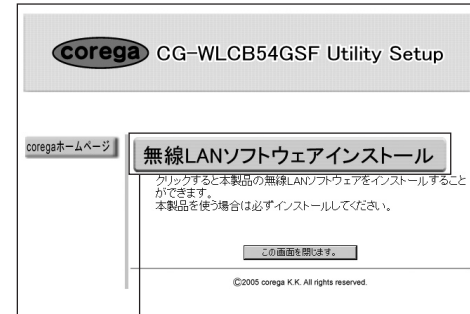
1 ユーティリティディスクをパソコンのCD-ROMドライブに入れます。



自動的に手順2(次ページ)のユーティリティセットアップ画面が表示されます。しばらく待っても表示されない場合は、「マイコンピュータ」のCD-ROMのアイコンをダブルクリックしてください。

20

2 「無線LANソフトウェアインストール」をクリックします。



をクリックします。

3 次の画面で、インストールのご注意をお読みになってから、使用しているOSをクリックします。



使用しているOSをクリックします。

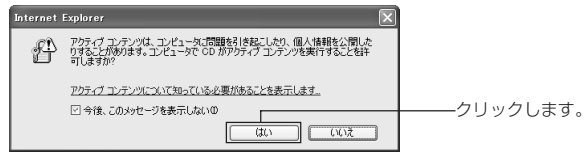
2

21

4 お使いの環境によって手順が異なります。お使いの環境に合わせた手順でインストール作業を続けてください。

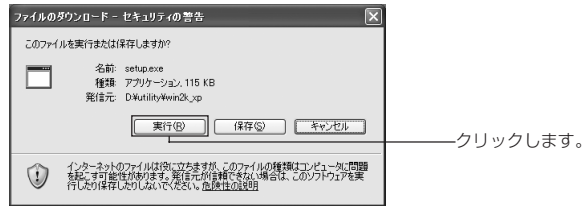
●Windows XP(SP2)の場合

① 次の画面が表示された場合、[はい]をクリックします。

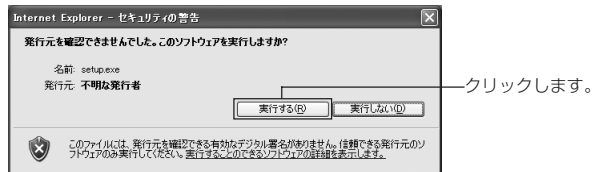


メモ 「今後、このメッセージを表示しない」のチェックを外すと、Internet Explorerのアクティブコンテンツが起動するたびに表示されます。

② 次の画面が表示されますので、[実行]をクリックします。



③ [実行する]をクリックします。

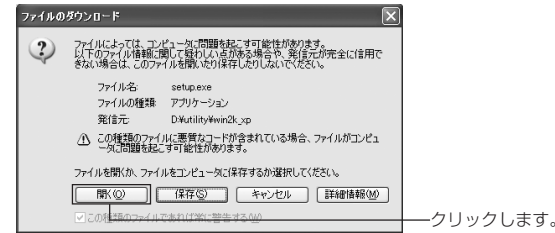


④ インストール画面が起動します。画面の指示に従ってインストールを続けてください。

メモ 手順①～③については、弊社にて動作を確認しております。

●Windows XP(SP1)の場合

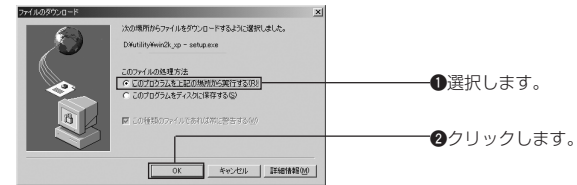
次の画面が表示されますので、[開く]をクリックします。



メモ 弊社にて動作を確認しております。

●Windows 2000/Me/98SEの場合

① 「このプログラムを上記の場所から実行する」を選択して、[OK]をクリックします。



② セキュリティ警告が表示されますが、[はい]をクリックします。

メモ 弊社にて動作を確認しております。  
・上記の画面はお使いの環境によっては表示されない場合があります。

2

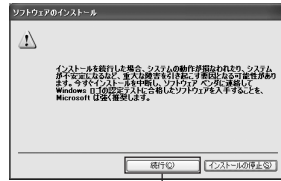
- 5 「InstallShield wizard」の画面が表示されますので、[次へ]をクリックしてインストール作業を続けます。



クリックします。

- メモ** インストールの途中で次のような画面が表示された場合、OS別にボタンをクリックして、インストール作業を続けてください。

●WindowsXPの場合

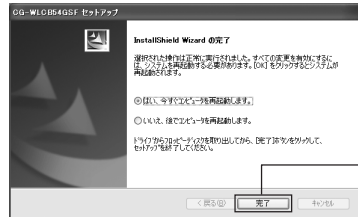


●Windows 2000の場合



クリックします。

- 6 「InstallShield ウィザードの完了」の画面が表示されたら、[完了]をクリックします。



クリックします。

- 7 パソコンが再起動を始めます。再起動を促す画面が表示されない場合もパソコンを再起動してください。

- 8 パソコンが再起動したら、CD-ROMドライブからユーティリティディスクを取り出します。

## 本製品をパソコンに挿し込む

### ■本製品をパソコンに挿し込む時の注意

- ・本製品を取り付ける前に、必ず「ユーティリティをインストールする」(P.20)の作業を行ってください。
- ・CardBus 非対応のPC カードスロットには、絶対に本製品を挿入しないでください。無理に挿入しようとすると、PCカード、またはPC カードスロットを破損する恐れがあります。
- ・Windows XPの場合は、「コンピュータの管理者」または同等の権限をもつユーザ名でログインする必要があります。
- ・Windows 2000の場合は、「Administrator」またはAdministratorsグループのユーザ名でログインする必要があります。
- ・本製品をパソコンに挿し込むときに他のPCカードと接触すると、故障の原因になりますので他のPCカードを取り外してから挿し込んでください。

2

### ■ドライブのインストール

- 1 パソコンのPCカードスロットに、本製品をまっすぐにカチッと手応えがあるまで挿し込みます。

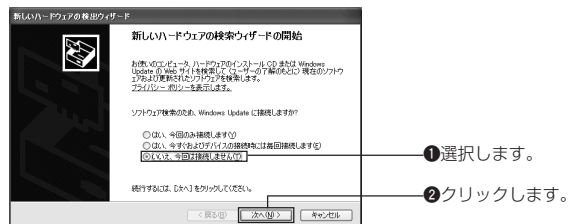
- メモ** パソコンにより挿し込む位置や向きが異なります。本製品を無理に挿し込んだ場合、本製品やパソコンが破損する恐れがあります。

- 2 ドライブが自動的にインストールされます。

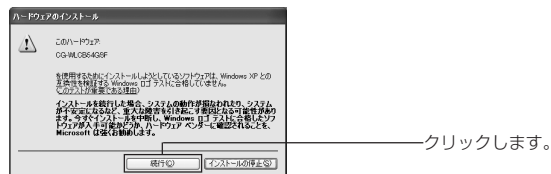
### ●Windows XP(SP2)の場合

- ① 「新しいハードウェアの検索ウィザードの開始」が表示されますので、[次へ]をクリックします。

② 次のような画面が表示されますので、「いいえ、今回は接続しません」を選択して、[次へ]をクリックします。



③ 次のような画面が表示されますが、そのまま[続行]をクリックします。



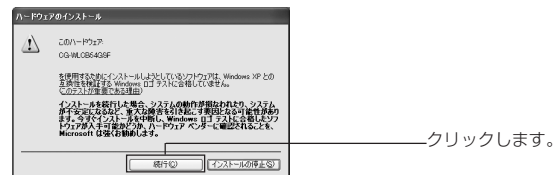
**メモ** 弊社にて動作を確認しております。

④ 「新しいハードウェアの検索ウィザードの完了」画面が表示されますので、[完了]をクリックし、パソコンを再起動します。自動的にパソコンが再起動しない場合も必ずパソコンを再起動してください。

●Windows XP(SP1)の場合

① 「新しいハードウェアの検索ウィザードの開始」が表示されますので、[次へ]をクリックします。

② 次のような画面が表示されますが、そのまま[続行]をクリックします。

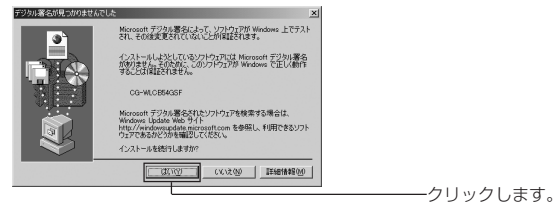


**メモ** 弊社にて動作を確認しております。

③ 「新しいハードウェアの検索ウィザードの完了」画面が表示されますので、[完了]をクリックし、パソコンを再起動します。自動的にパソコンが再起動しない場合も必ずパソコンを再起動してください。

●Windows 2000の場合

① 次の画面が表示されたときは、[[はい]をクリックします。



**メモ** 弊社にて動作を確認しております。

② パソコンを再起動します。自動的にパソコンが再起動しない場合も必ずパソコンを再起動してください。



●Windows Me/98SEの場合

① 自動的に本製品のドライバがインストールされます。

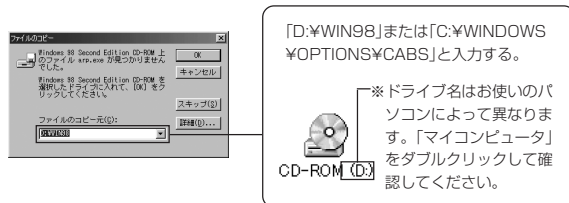
**注意** Windows Me/98SEではOSのCDを挿入するようメッセージが表示される場合があります。その時は次のようにしてください。(次の手順は、Windows 98SEの場合の手順です。Windows Meの場合もWindowsのメッセージにしたがって手順を進めてください。)

1. CD-ROMドライブにWindows 98SEのCD-ROMを入れて、[OK]をクリックします。



をクリックします。

2. 「ファイルのコピー元」に以下のように入力し[OK]をクリックします。



② パソコンを再起動します。

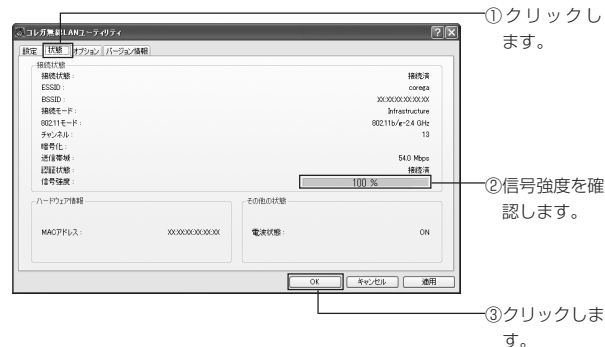
無線ユーティリティを起動する

無線ユーティリティを起動し、接続状態を確認します。

1 画面右下のタスクトレイにある  をダブルクリックして、ユーティリティ画面を開きます。



2 「状態」タブをクリックして、「信号強度」に緑色のバーが表示されていることを確認してください。表示されていれば、正常に接続されています。



2

**メモ** 安定した通信を行うために、「信号強度」の緑色のバーの表示がより100%に近い場所でお使いください。

3 [OK]をクリックして画面を閉じます。

4 パソコンのWebブラウザ(Internet Explorer)を起動して、インターネットにつながることを確認してください。

これで本製品のセットアップが終了しました!

**メモ** インターネットに接続するにはルータなどの設定も必要です。各機器の取扱説明書をご覧ください。



**注意** Webブラウザを起動してもインターネットにつながらない場合は、引き続き、「PART3 無線LANの設定をしよう」(P.31)をご覧ください。パソコンのネットワーク設定を確認してください。

## 本製品を使わないときには

### ■本製品をパソコンから取り外す

本製品をパソコンから取り外す場合は、以下の手順で取り外してください。正しい手順で取り外さないとパソコンが正常に動作しなくなることがあります。

- 注意**
- ・本製品を取り外す前に、ご使用のパソコンがネットワークにアクセスしていないこと、また、他のパソコンからアクセスされていないことを確認してください。
  - ・以下の手順2までの操作を行うと、実際に本製品を取り外さなくてもデバイスの使用を停止したとみなされ、本製品は使用できなくなります。再度使用するときは、一度本製品を取り外してから再び取り付けてください。

- 1 画面右下のタスクトレイの  または、 をクリックし、「CG-WLCB54GSFを安全に取り外します」をクリックします。(ご使用のOSにより、下線部の表示は、中止や停止するという意味の内容になります。)
- 2 安全に取り外せる旨のメッセージが表示されたら、または[OK]をクリックします。
- 3 PCカードスロットのイジェクトボタンを押し、本製品をPCカードスロットから取り外します。

以上で取り外しの手順は終了です。

再度使用する場合は、そのままPCカードスロットに取り付けると使用できません。

- 注意**
- 手順2で安全に取り外せる旨のメッセージが表示されない場合、お使いのパソコンのハードウェアまたは、ソフトウェアが、本製品を使用している可能性があります。お使いのパソコンの電源を切ってから、本製品を取り外してください。

## PART3 無線LANの設定をしよう

### パソコンのネットワーク設定を確認する

無線LANでのデータのやりとりや、インターネットに接続をする場合は、パソコンのネットワークの設定が必要です。

#### ■インターネットに接続するとき

**注意** この作業は、「コンピュータの管理者」または同等の権限を持つユーザ名でログインして行ってください。ユーザ権限については、Windows XPの取扱説明書をご覧ください。

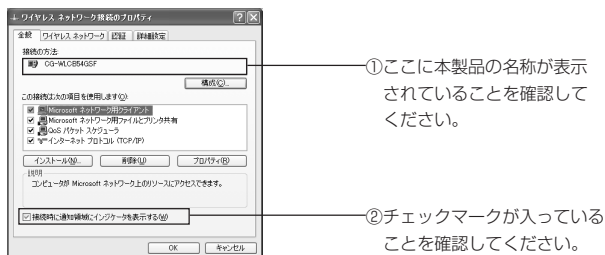
本製品を接続したパソコンでインターネットに接続するにはTCP/IPの設定が必要です。次の手順で設定を確認してください。

3

#### ●Windows XPの場合

- 1 [スタート]—[コントロールパネル]をクリックします。
- 2 「コントロールパネル」にある「ネットワークとインターネット接続」をクリックします。  
「ネットワークとインターネット接続」が表示されていない場合は、画面左側の「カテゴリの表示に切り替える」をクリックしてください。
- 3 「ネットワーク接続」をクリックします。
- 4 「ワイヤレスネットワーク接続」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。

- 5 「全般」タブで「インターネットプロトコル(TCP/IP)」が有効になっているか確認します。



- 6 「インターネットプロトコル(TCP/IP)」を選択し、「プロパティ」をクリックします。

- 7 「全般」タブを選択し、次のように設定します。



- ① DHCPサーバ機能を持ったルータなどを使ってインターネットに接続する場合は、「IPアドレスを自動的に取得する」を選択します。通常はこちらを選択します。
- ② DHCPサーバ機能を使用しない場合や、特定のIPアドレスを割り当てる必要がある場合は、「次のIPアドレスを使う」を選択して、ご使用の環境に合わせIPアドレスやサブネットマスクなどを入力してください。

- 8 [OK]をクリックします。

- 9 「ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ」画面で、[OK]をクリックします。

- 10 再起動を促すメッセージが表示された場合は、再起動します。メッセージが表示されなかった場合も、再起動してください。

**メモ** インターネットに接続するにはルータなどの設定も必要です。各機器の取扱説明書をご覧ください。設定を行ってください。

● Windows 2000 の場合

**注意** この作業は、「Administrator」または同等の権限を持つユーザ名でログインして行ってください。ユーザ権限については、Windows 2000の取扱説明書をご覧ください。

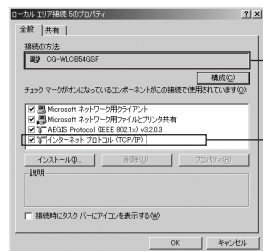
- 1 [スタート]－[設定]－[ネットワークとダイヤルアップ接続]をクリックします。

- 2 「ローカルエリア接続」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。



※「ローカルエリア接続」の名称はご使用のパソコンの環境により異なる場合があります。

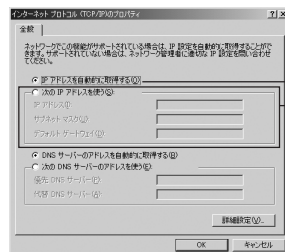
- 3 「インターネットプロトコル(TCP/IP)」が有効になっていることを確認します。



- ①ここに本製品の名称が表示されていることを確認してください。
- ②チェックマークが入っていることを確認してください。

- 4 「インターネットプロトコル(TCP/IP)」を選択し、[プロパティ]をクリックします。

- 5 次のようにIPアドレスの設定します。



- ①DHCPサーバ機能を持ったルータなどを使ってインターネットに接続する場合は、「IPアドレスを自動的に取得する」を選択します。通常はこちらを選択します。
- ②DHCPサーバ機能を使用しない場合や、特定のIPアドレスを割り当てる必要がある場合は、「次のIPアドレスを使う」を選択して、ご使用の環境に合わせIPアドレスやサブネットマスクなどを入力してください。

- 6 [OK]をクリックします。

- 7 「ローカルエリア接続のプロパティ」画面で[OK]をクリックします。

- 8 再起動を促すメッセージが表示された場合は、再起動します。メッセージが表示されなかった場合も、再起動してください。

**メモ** インターネットに接続するにはルータなどの設定も必要です。各機器の取扱説明書をご覧ください。設定を行ってください。

● Windows Me/98SE の場合

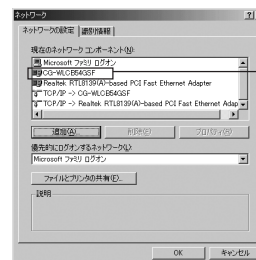
ここでは例としてWindows Meを使用しています。Windows 98 SEをご使用の場合も手順は同様です。

- 1 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]をクリックします。
- 2 「コントロールパネル」にある「ネットワーク」をダブルクリックします。

3

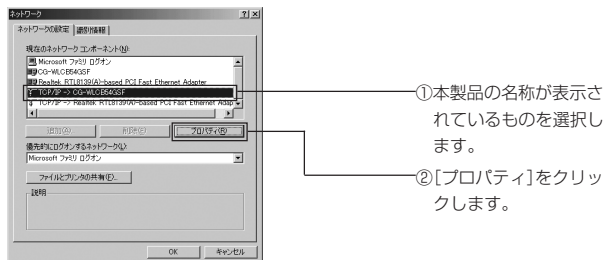
**メモ** Windows Meの場合、「ネットワーク」アイコンが表示されない場合は、「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する」をクリックしてください。

- 3 「ネットワークの設定」タブ内で「現在のネットワークコンポーネント」の欄に「TCP/IP → CG-WLCB54GSF」が表示されていることを確認します。

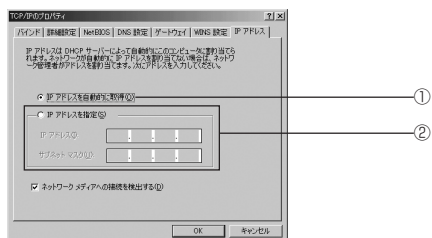


ここに本製品の名称が表示されていることを確認してください。  
※ネットワークアダプタが本製品だけの場合は「TCP/IP」と表示されます。

- 4 「現在のネットワークコンポーネント」の一覧から「TCP/IP→CG-WLCB54GSF」を選択し、「プロパティ」をクリックします。



- 5 「IPアドレス」タブで、次のように設定します。



- ① DHCPサーバ機能を持ったルータなどを使ってインターネットに接続する場合は、「IPアドレスを自動的に取得する」を選択します。通常はこちらを選択します。
- ② DHCPサーバ機能を使用しない場合や、特定のIPアドレスを割り当てる必要がある場合は、「次のIPアドレスを使う」を選択して、使用するIPアドレスやサブネットマスクなどを入力してください。

- 6 [OK]をクリックします。

- 7 「ネットワーク」画面の、[OK]をクリックします。

**メモ** WindowsのOS用ディスクを入れるようにダイアログが表示された場合はドライブにWindowsのOS用ディスクを挿入し、メッセージにしたがって操作します。

- 8 再起動を促すメッセージが表示された場合は、再起動します。メッセージが表示されなかった場合も、再起動してください。

**メモ** インターネットに接続するにはルータなどの設定も必要です。各機器の取扱説明書をご覧ください。設定を行ってください。

### ■他のパソコンとファイルやプリンタを共有するとき

使用するネットワーク環境に応じて、次のような設定を行ってください。設定方法について詳しくは、Windowsの取扱説明書やヘルプをご覧ください。企業などで利用する場合は、ネットワーク管理者に設定内容を確認してください。


- ・必要なサービスやプロトコルを追加、有効にする
- ・コンピュータ名とワークグループ名を設定する
- ・フォルダやプリンタの共有設定をする

これで無線LANを使って他のパソコンとファイルのやりとりをしたり、インターネットへ接続したりできるようになります。

次に「セキュリティを設定する」(P.39)に進んでください。

3


## ■「Ad-Hoc (アドホック) モード」で使うとき

画面右下のタスクトレイにある  をダブルクリックし、本製品のユーティリティを起動します。

### 1 通信可能なESSID(ネットワーク)が表示されます。

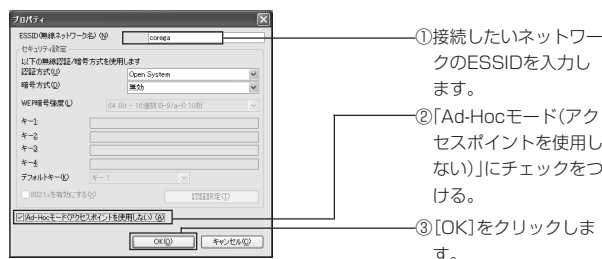


① 接続したいAd-Hoc(アドホック)モードのESSID(ネットワーク)をダブルクリックします。

**メモ** 接続する相手側の機器もAd-Hocモードに設定されている必要があります。Ad Hoc (アドホック) モードに設定されている機器は  で表示されます。

② 新規で「Ad-Hoc(アドホック)モード」を利用したネットワークを構築する場合は「追加」をクリックします。

### 2 「優先するアクセスポイント」の欄に表示されたESSIDを選択し、[プロパティ]をクリックし、次のように設定します。



38

**メモ** セキュリティ設定は、通信相手機器に合わせて同じ内容の設定をしてください。

### 3 手順1の画面右下の[適用]をクリックして設定を反映させます。

これで「Ad-Hoc(アドホック)モード」の設定は完了しました。「セキュリティを設定する」をご覧ください、セキュリティの設定を行ってください。

## セキュリティを設定する

### ■無線 LAN のセキュリティについて

無線LANではデータの通信に電波を利用しているため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、悪意ある第三者により通信内容を盗み見られIDやパスワード又はクレジットカード番号等の個人情報やメールの内容を盗み見られたり、悪意ある第三者によりネットワークへのアクセス不正に侵入され、個人情報や機密情報を取り出されたり(情報漏洩)、特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流される(なりすまし)、傍受した通信内容を書き換えての発信(改ざん)、コンピュータウィルスなどを流しデータやシステムの破壊(破壊)の危険性があります。

本製品は、これらの問題に対応するためのセキュリティ機能を持っていますので、セキュリティ設定を行うことをお勧めします。

#### ●本製品で設定できるセキュリティ機能

##### ・ESSID(Extended Service Set Identifier)

無線LANに接続する機器を識別する名前です。SSIDと呼ばれることもあります。同じESSIDを持つ無線LAN機器同士でしか通信できないため、独自のESSIDを設定することにより、外部から不正侵入される危険が減少します。設定方法については、このPARTの「ESSIDを設定する」(P.40)をご覧ください。

##### ・WEP(Wired Equivalent Privacy)

通信内容を暗号化し、通信内容の傍受を防ぐセキュリティ機能です。通信データを傍受された場合でも、通信内容の復元を容易にできなくなります。設定方法については、このPARTの「WEPを設定する」(P.41)をご覧ください。

3

39

## ・WPA(Wi-Fi Protected Access)

暗号化するための暗号キーが一定時間ごとに自動的に変わるので、WEPよりも解読されにくくなります。家庭でご利用できる「WPA - PSK (パーソナル)」と企業でご利用できる「WPA - EAP (エンタープライズ)」の2種類の設定ができます。設定方法については、このPARTの「WPAを設定する」(P.43)をご覧ください。

## ・802.1x認証

無線ネットワークを確立する際に、認証サービスを受けるセキュリティ設定です。正しい認証キーでアクセスすると認証サーバが正規のユーザであることを承認し、通信が可能になります。主に企業内のネットワークで利用されます。設定方法については、このPARTの「RADIUSサーバで使う場合の認証設定」(P.45)をご覧ください。

## ■ ESSIDを設定する

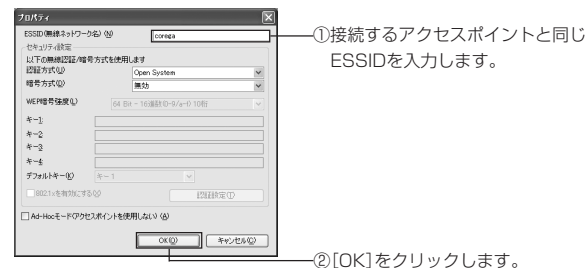
- 1 画面右下のタスクトレイにある をダブルクリックし、本製品のユーティリティを起動します。
- 2 「設定」タブをクリックします。
- 3 「AP検索」リストに通信可能なESSID(ネットワーク)が表示されますので、接続したいESSID(ネットワーク)をダブルクリックします。



※「AP検索」リストにESSID(ネットワーク)が表示されない場合は、[再検索]をクリックします。

**注意** アクセスポイントにESSIDを検索されないような機能(ステルスAP)が設定されている場合はESSIDが空欄で表示されます。

- 4 「プロパティ」画面が表示されますので、接続するESSIDと同じ値を入力し、[OK]をクリックします。



- 5 手順2の「設定」画面に戻りますので、[適用]をクリックして設定を反映させます。

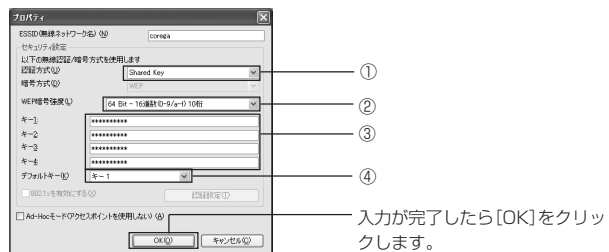
## ■ WEPを設定する

- 1 画面右下のタスクトレイにある をダブルクリックし、本製品のユーティリティを起動します。
- 2 「設定」タブをクリックします。
- 3 「AP検索」リストに通信可能なESSID(ネットワーク)が表示されますので、接続したいESSID(ネットワーク)をダブルクリックします。  
※「AP検索」リストにESSID(ネットワーク)が表示されない場合は、[再検索]をクリックします。

**注意** アクセスポイントにESSIDを検索されないような機能(ステルスAP)が設定されている場合はESSIDが空欄で表示されます。



4 「プロパティ」画面が表示されますので、WEPの設定をします。



- ①「Shared Key」を選択すると、暗号方式が「WEP」に設定されます。
- ②「64Bit」「128Bit」「152Bit」の中から選択します。
- ③接続するアクセスポイントと同じ16進数の暗号キーを直接入力します。
  - ・64Bit : 16進数(0~9、a~f) 半角10桁
  - ・128Bit : 16進数(0~9、a~f) 半角26桁
  - ・152Bit : 16進数(0~9、a~f) 半角32桁
- ④初回アクセスに使う暗号キーをKey1~4の中から選択します。


**注意** ・接続する無線LAN機器にWEPキーを自動生成する機能がある場合は、自動生成されたWEPキーを直接入力してください。  
・デフォルトキーはアクセスポイントと同じデフォルトキーを設定してください。

5 [OK]をクリックします。

6 手順2の「設定」画面に戻りますので、「適用」をクリックして設定を反映させます。

## ■ WPA を設定する

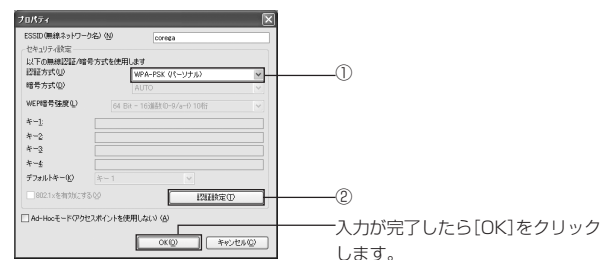
### ● 家庭で使う場合

- 1 画面右下のタスクトレイにある  をダブルクリックし、本製品のユーティリティを起動します。
- 2 「設定」タブをクリックします。
- 3 「AP検索」リストに通信可能なESSID(ネットワーク)が表示されますので、接続したいESSID(ネットワーク)をダブルクリックします。  
※「AP検索」リストにESSID(ネットワーク)が表示されない場合は、「再検索」をクリックします。

**注意** アクセスポイントにESSIDを検索されないような機能(ステルスAP)が設定されている場合はESSIDが空欄で表示されます。

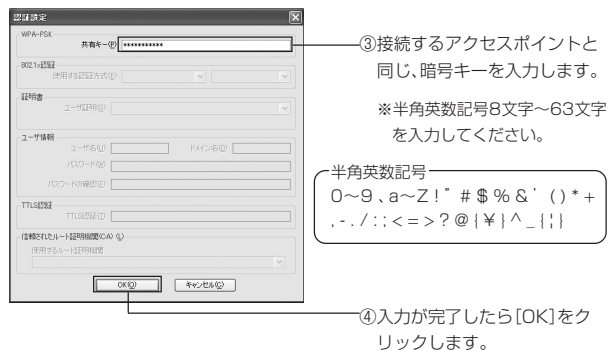
3

4 「プロパティ」画面が表示されますので、WPAの設定をします。



- ①「WPA-PSK(パーソナル)」を選択します。
- ② [認証設定] をクリックします。  
※RADIUSサーバを持たない小規模なネットワーク構築の場合は任意の共有キーを入力して設定します。

### 「認証設定」画面



5 [OK]をクリックします。

6 手順2の「設定」画面に戻りますので、[適用]をクリックして設定を反映させます。

#### ●企業で使う場合

1 画面右下のタスクトレイにある  をダブルクリックし、本製品のユーティリティを起動します。

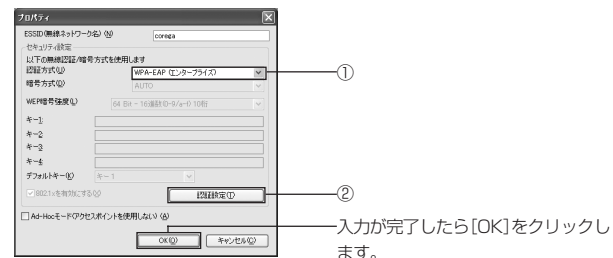
2 「設定」タブをクリックします。

3 「AP検索」リストに通信可能なESSID(ネットワーク)が表示されますので、接続したいESSID(ネットワーク)をダブルクリックします。

※「AP検索」リストにESSID(ネットワーク)が表示されない場合は、「再検索」をクリックします。

**注意** アクセスポイントにESSIDを検索されないような機能(ステルスAP)が設定されている場合はESSIDが空欄で表示されます。

4 「プロパティ」画面が表示されますので、WPAの設定をします。



①「WPA-EAP(エンタープライズ)」を選択します。

②認証設定をしたい場合は[認証設定]をクリックします。

※詳しくは、「RADIUSサーバで使う場合の認証設定」をご覧ください。

5 [OK]をクリックします。

6 手順2の「設定」画面に戻りますので、[適用]をクリックして設定を反映させます。

#### ●RADIUSサーバで使う場合の認証設定

RADIUSサーバを持つ大規模なネットワークではお使いのネットワークに合わせた設定が必要です。ご使用の環境によって設定が異なりますので、個々のネットワーク管理者にお問い合わせください。

**メモ** ユーザ証明はあらかじめダウンロードなどをして、インストールしておく必要があります。

- 1 「企業で使う場合」をご覧になり、「プロパティ」画面で「認証設定」をクリックします。

ここでは「EAP-TLS」を設定する場合の説明をします。

①「EAP-TLS」を選択します。

②「ユーザー証明」にインストール済の認証サーバの認証キーを選択します。

③「ユーザー名」を入力します。

④入力が完了したら「OK」をクリックします。

- ⑤ 「設定」画面に戻りますので、「適用」をクリックして設定を反映させます。

**メモ** 弊社ではWindows 2000 Server インターネット認証サービス (IAS) で動作を確認しております。

**メモ** ・本製品で設定できる WEP および WPA の設定は以下のとおりです。  
・暗号化の設定は接続する無線LAN機器の設定と同じ設定にする必要があります。

● WEP…Infrastructure/Ad-Hoc 共通

認証方式	暗号方式	WEP 暗号強度
Open System	無効	—
	WEP	64Bit - 16進数 (0~9/a~f) 10桁 128Bit - 16進数 (0~9/a~f) 26桁 152Bit - 16進数 (0~9/a~f) 32桁
Shared Key	WEP	64Bit - 16進数 (0~9/a~f) 10桁 128Bit - 16進数 (0~9/a~f) 26桁 152Bit - 16進数 (0~9/a~f) 32桁


● WPA…Infrastructureの場合

認証方式	暗号方式	認証設定
WPA - EAP (エンタープライズ)	TKIP	EAP - TLS LEAP EAP - TTLS PEAP
WPA - PSK (パーソナル)	TKIP	共有キー

3

## PART4 ユーティリティの画面について

### ユーティリティを起動しよう

画面右下のタスクトレイにある  をダブルクリックし、本製品のユーティリティを起動します。ユーティリティには、以下の4つのタブがあります。設定内容に応じて、ユーティリティのタブをクリックしてください。



タブ名	内容
設定	ネットワークの接続を設定することができます。
状態	ネットワークの接続状態を確認することができます。
オプション	オプション機能の設定を変更することができます。
バージョン情報	本製品のソフトウェアの現在のバージョンを確認することができます。




### 「設定」画面



ボタン名	機能
OK	設定した内容を保存してユーティリティの画面を閉じます。
キャンセル	設定した内容を保存せずにユーティリティの画面を閉じます。
適用	設定した内容を保存し適用します。

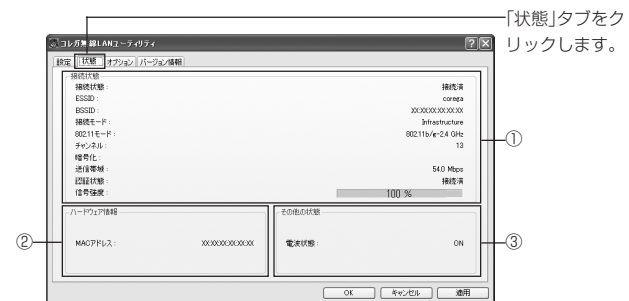
項目名	説明
① AP検索	<p>利用可能なアクセスポイントのリストが表示されます。</p> <p>再検索 ----- 利用可能なアクセスポイントの検索を開始します。</p> <p>接続 ----- 選択したアクセスポイントの接続を開始します。</p> <p>※アクセスポイントにセキュリティが設定されている場合は、同じ設定をする必要があります。</p>

4

項目名	説明
② 設定ファイルの管理	<p>個々に設定した内容を設定ファイルに保存することができます。20件まで保存できます。</p> <p>追加 ----- 現在の設定を設定ファイルに追加します。</p> <p>名称変更 ---- 設定ファイルの名前を変更します。</p> <p>削除 ----- 選択している設定ファイルを削除します。</p> <p>選択 ----- 設定ファイルを選択します。</p>
③ 優先するアクセスポイント	<p>優先的に接続するアクセスポイントを設定します。</p> <p>追加 ----- 接続するアクセスポイントをリストに追加します。</p> <p>削除 ----- 選択したアクセスポイントをリストから削除します。</p> <p>プロパティ -- 選択したアクセスポイントのプロパティを設定します。</p> <p>移動 ----- 「設定ファイルの管理」に登録されているファイル間でアクセスポイントを移動します。</p> <p>再接続 ----- 接続が切れたアクセスポイントに再接続します。</p> <p> ----- 選択したアクセスポイントの優先順位を上位に移動します。</p> <p> ----- 選択したアクセスポイントの優先順位を下位に移動します。</p> <p> ----- 優先するアクセスポイントの優先順位と関係なく、選択したアクセスポイントに接続します。</p> <p>最大で15件まで表示することができます。</p>

50

## 「状態」画面



「状態」タブをクリックします。

ボタン名	機能
OK	設定した内容を保存してユーティリティの画面を閉じます。
キャンセル	設定した内容を保存せずにユーティリティの画面を閉じます。
適用	設定した内容を保存し適用します。

4

51

項目名	説明
① 接続状態	<p>接続状態 ----- アクセスポイントへの接続状態が表示されます。</p> <p>ESSID ----- 設定しているESSIDが表示されます。</p> <p>BSSID ----- 接続している相手機器のMACアドレスが表示されます。</p> <p>接続モード ----- 設定している接続モードが表示されます。</p> <p>802.11モード --- 接続している通信規格が表示されます。</p> <p>チャンネル ----- 設定しているチャンネルが表示されます。</p> <p>暗号化 ----- 設定しているセキュリティが表示されます。</p> <p>送信帯域 ----- 送信している帯域が表示されません。</p> <p>認証状態 ----- 接続している相手機器との接続状態が表示されます。</p> <p>信号強度 ----- 接続している相手機器との信号の強度が表示されます。</p>
②ハードウェア情報	MACアドレス --- MACアドレスが表示されます。
③ その他の状態	電波状態 ----- 本製品が通信可能な状態であるかどうかが表示されます。

## 「オプション」画面



ボタン名	機能
OK	設定した内容を保存してユーティリティの画面を閉じます。
キャンセル	設定した内容を保存せずにユーティリティの画面を閉じます。
適用	設定した内容を保存し適用します。

項目名	説明
① 一般設定	<input type="checkbox"/> Windows起動時に自動的に常駐する チェックを入れると、Windows起動時にユーティリティが自動的に起動し、タスクトレイに常駐します。
② 使用する通信モード	<p>Infrastructureのみ --- Infrastructure(インフラストラクチャ)モードでの通信のみ使用します。</p> <p>Ad-Hocのみ ----- Ad-Hoc(アドホック)モードでの通信のみ使用します。</p>
③ 詳細設定	電波を止める ----- チェックを入れると、電波の発信を止めて無線LAN通信を止めます。

4

項目名	説明
③ 詳細設定	<p>周波数帯域 ----- 通信を行う周波数帯域を設定します。 ※工場出荷時の設定は「80211b/g-2.4GHz」です。</p> <p>Ad-Hocのチャンネル --- Ad-Hoc時に使用するチャンネルを設定します。 ※工場出荷時の設定は「Auto」です。</p> <p>省電力モード ----- 消費電力を抑える設定をします。 無効:省電力モードを無効にします。 速度優先:無線の送受信効率を上げつつ、バッテリーの消費電力も抑えます。「最大」よりも消費電力が高くなります。 最大:無線の送受信効率を下げ、バッテリーの消費電力を抑えます。 ※工場出荷時の設定は「速度優先」です。</p> <p>送信電力 ----- 送信電力を設定します。 ※工場出荷時の設定は「100%」です。 ※通常は設定を変更する必要はありません。</p> <p>eXtended Range -- eXtended Range機能を設定します。 ※eXtended Range機能を有効にすると通信範囲が広がりますが、接続する相手機器もeXtended Range機能を「有効」にする必要があります。 ※工場出荷時の設定は「無効」です。</p>

**注意**

- 本製品のeXtended Range機能は、Windows XP/2000でのみ使用することができます。
- アクセスポイントもeXtended Range機能に対応している必要があります。

## 「バージョン情報」画面

本製品のソフトウェアの現在のバージョンが表示されます。



「バージョン情報」タブをクリックします。

ボタン名	機能
OK	設定した内容を保存してユーティリティの画面を閉じます。
キャンセル	設定した内容を保存せずにユーティリティの画面を閉じます。
適用	設定した内容を保存し適用します。

項目名	説明
ユーティリティバージョン	本製品のユーティリティのバージョンが表示されます。
ドライババージョン	本製品のドライバのバージョンが表示されます。

4

## PART5 トラブルや疑問があったら

本製品を使っていて「困ったな」「うまく動かない…」と思ったとき、疑問があるときは、このPARTで解決方法を探してください。

### 解決のステップ

#### ①取扱説明書を再確認する。管理者に確認する

#### ②このPARTのQ&Aを確認する

- ・本製品のユーティリティがインストールできない
- ・「デバイスマネージャ」に本製品が正しく表示されない
- ・「デバイスマネージャ」で「×」が付く
- ・ユーティリティを削除するには？
- ・通信ができない
- ・ユーティリティが表示されず、Windowsの設定画面が表示される
- ・より安定した通信をするには？
- ・通信速度が遅い
- ・「マイネットワーク」に他のパソコンが表示されない
- ・ホットスポットサービスを利用するには？

#### ③それでも解決しなければ、お取扱相談センタに問い合わせください

- メモ** お取扱相談センタの連絡先、営業時間などについては、本製品に添付のNTT 通信機器お取扱相談センタシールをご覧ください。

### 取扱説明書を再確認する。管理者に確認する

本書以外にも通信相手の機器の取扱説明書、パソコンに添付の取扱説明書をお手元にご用意ください。ネットワークにつながらない原因は複雑なため、本製品の設定が正しくても、他の機器の設定が間違っていたり、通信相手の機器の問題で正しく動作しないこともあります。

- ・企業などでお使いの場合は … ネットワークの設定がオフィスによって決められていることがあります。ネットワーク管理者などに確認してください。
- ・インターネットにつながらないときは … プロバイダから送られてきた各種設定項目を確認して、設定してください。

### Q&A

#### ■本製品のユーティリティがインストールできない

次のことを確認してください。

- メモ** ユーティリティのインストール方法は、P.20で紹介しています。

#### ●本製品に対応の機種、OSをお使いですか？

「PART1 まず準備が必要」「ご使用のパソコンのシステム（環境）を確認しよう」（P.15）をご覧ください。

#### ●インストール権限のあるユーザですか？

Windows 2000やWindows XPでは、「Administrator」や「コンピュータの管理者」権限を持つユーザでないと、ソフトウェアのインストールやネットワークの設定ができないことがあります。

#### ●「マイコンピュータ」にCD-ROMドライブが表示されていて、使える状態になっていますか？

使用できない状態の場合は、パソコンメーカーにお問い合わせください。

5



### ● 本製品をパソコンに取り付けた状態でインストールしていませんか？

パソコンに本製品の情報の一部がインストールされてしまい、挿し直しても正常にソフトウェアがインストールされなくなってしまう場合があります。「デバイスマネージャ」に「？」がついて「イーサネットコントローラ」と表示されますので、右クリックし、「削除」を選択します。本製品を取り外した後、ユーティリティディスクを使って、無線LANソフトウェアをインストールしなおしてください。


### ● お使いのパソコンに“ Windows 98 Secand EditionのCD-ROM” は、ついていますか？

本製品のドライバをインストールするとき、「 Windows 98 Secand Edition CD-ROM” のラベルの付いたディスクを挿入して [OK] をクリックしてください。」とメッセージが、表示されることがあります。お使いのパソコンに“ Windows 98 Secand Edition CD-ROM” のラベルの付いたディスク (OSのCD-ROM) がついていない場合は、パソコンメーカーにお問い合わせください。

### ■ 「デバイスマネージャ」に本製品が正しく表示されない

本製品のアイコンが以下になっている場合は、本製品のユーティリティのインストールに失敗しています。このようなときは、本製品のユーティリティをいったん削除し、再インストールしてください。

- ・「その他のデバイス」や「不明なデバイス」の下に入っている
- ・「ネットワークアダプタ」の項目がない
- ・「CG-WLCB54GSF」アイコンに「!」「？」マークが付く
- ・「CG-WLCB54GSF」アイコンが2つ以上ある

**メモ** Windows 2000をお使いの場合、「本製品をパソコンから取り外す」(P.30)の手順1で、をクリックした後、本製品を取り外すまで一時的に、デバイスマネージャの「CG-WLCB54GSF」アイコンに「!」が付きますが、ドライバのインストールの失敗ではありません。

- 1 「その他のデバイス」「不明なデバイス」「ネットワークアダプタ」の下のインストールに失敗した「CG-WLCB54GSF」アイコンを右クリックし、「削除」をクリックします。

- 2 「デバイスの削除の確認」ダイアログボックスが表示されたら、[OK] をクリックします。
- 3 パソコンの電源を切った後、本製品を取り外します。
- 4 パソコンの電源を入れてこのPARTの「ユーティリティを削除するには？」をご覧になり、ソフトウェアを削除します。
- 5 「PART2 ユーティリティをインストールしよう」「ユーティリティをインストールする」(P.20)をご覧になり、ユーティリティを再インストールします。

### ■ 「デバイスマネージャ」で「×」が付く

「デバイスマネージャ」の「CG-WLCB54GSF」アイコンに「×」マークが付いているときは、本製品が「使用不可」または「無効」に設定されています。次の手順で、本製品を使用できるように設定してください。

#### ● Windows XP/2000 の場合

- 1 「デバイスマネージャ」の「ネットワークアダプタ」をダブルクリックし、その下に表示される「CG-WLCB54GSF」を右クリックして「有効」を選択します。

#### ● Windows Me/98 SE の場合

- 1 「デバイスマネージャ」の「CG-WLCB54GSF」をクリックして選択(反転表示)し、「プロパティ」をクリックします。「全般」タブが表示されます。
- 2 「このハードウェアプロファイルで使用不可にする」のチェックを外し、「すべてのハードウェアプロファイルで使用する」にチェックを付けます。
- 3 [OK] をクリックします。

### ■ ユーティリティを削除するには？

本製品のユーティリティの削除には2つの手順があります(ご使用のOSによります)。

5

### ● Windows XP/2000 の場合

- 1 「本製品をパソコンから取り外す」(P.30)の手順をご覧になり、パソコンから本製品を取り外します。
- 2 [スタート]－「プログラム」－「corega CG-WLCB54GSF」－「無線LANモニターの削除」の順にクリックします。  
「ファイル削除の確認」が表示されます。
- 3 [OK]をクリックします。  
ユーティリティの削除が行われ、しばらくすると「InstallShield Wizardの完了」が表示されます。
- 4 [完了]をクリックします。
- 5 パソコンを再起動します。

これでユーティリティの削除は終了です。

### ● Windows Me/98SE の場合

- 1 本製品をパソコンに取り付けたまま、[スタート]－「プログラム」－「corega CG-WLCB54GSF」－「無線LANモニターの削除」の順にクリックします。
- 2 「ファイル削除の確認」が表示されます。[OK]をクリックします。
- 3 「corega 802.11g/bワイヤレス アダプタ」画面が表示されます。パソコンに本製品が取り付けられていることを確認して、[はい]をクリックします。
- 4 ユーティリティの削除が行われ、しばらくすると「アンインストールが終了しました」とメッセージが表示されます。本製品をパソコンから取り外してください。
- 5 [OK]をクリックします。
- 6 パソコンを再起動します。

これでユーティリティの削除は終了です。

60

### ■通信ができない

#### ● CardBus 対応の PC カードスロットにセットしていますか？

PCカードタイプの場合、本製品をセットしているPCカードスロットが、CardBusに対応しているか確認してください。CardBus非対応のPCカードスロットに本製品をセットしても、本製品は動作しません。無理に挿し込もうとすると、本製品やPCカードスロットを破損する恐れがありますので、ご注意ください。

#### ● 本製品は正しく取り付けられていますか？

パソコンのPCカードスロットに本製品がきちんと挿し込まれているか再確認してください。パソコンの電源が入っている状態で「Power LED」が点滅していれば、正しく取り付けられています。

#### ● 本製品用ユーティリティは、インストールされていますか？

「PART2 ユーティリティをインストールしよう」「ユーティリティをインストールする」(P.20) をご覧になりインストールしてください。

#### ● ネットワークの設定は済んでいますか？

「PART3 無線LANの設定をしよう」(P.31) をご覧になり、設定してください。

#### ● 通信相手の機器は、ご使用のパソコンと通信できるタイプですか？

無線LANにはいくつかの方式があり、同じ方式を使う機器でないと通信できません。「PART1 まず準備が必要」「接続方法を決めよう」(P.15) をご覧になり、確認してください。

#### ● セキュリティの設定を確認してください

「PART3 無線LANの設定をしよう」「セキュリティを設定する」(P.39) をご覧になり、セキュリティの設定を確認してください。特に、すでに無線LANが構築されている環境に機器を追加するときなどは注意が必要です。アクセスポイント側で「WEP暗号化」または「WPA」を設定している場合は、本製品を取り付けたパソコン側にも同じ暗号や共通キーを設定してください。

5

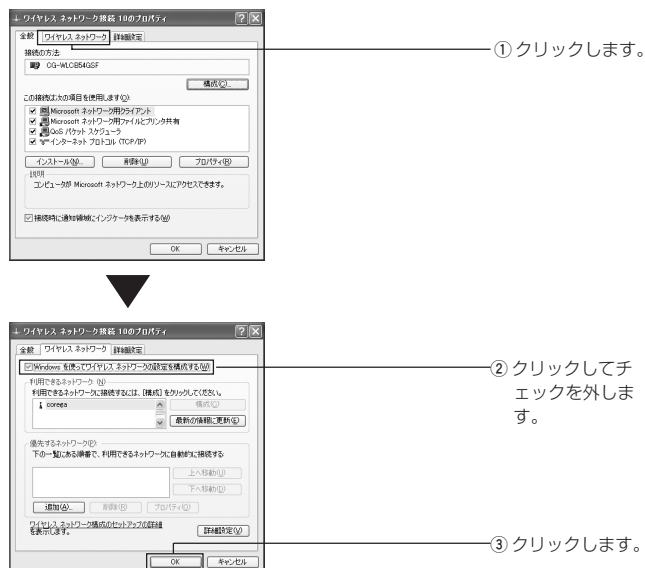
### ● ESSID を確認してください

通信相手のESSIDと本製品のESSIDが同じ設定にしないと通信ができません。「PART3 無線 LAN の設定をしよう」「ESSID を設定する」(P.40) をご覧になり、本製品のESSIDを通信相手に合わせて設定してください。

**メモ** 本製品の無線ネットワーク機器のESSIDまたはSSIDの初期設定は、「corega」になっています。

### ■ユーティリティが表示されず、Windowsの設定画面が表示される (Windows XPのみ)

**Y** をクリックするとユーティリティが表示されず、下の画面が表示される場合、「ワイヤレスネットワーク」タブをクリックし、「Windowsのワイヤレスネットワークを使って構成する」のチェックマークを外してください。



62

### ■より安定した通信をするには？

● 相手側の無線 LAN 機器との距離を近づける

● 相手側の無線 LAN 機器との間に障害物を置かない

● 金属製のラックなどに無線 LAN 機器を設置しない

通信速度が遅い、通信が途切れるような場合は、まず各機器の距離を近づけて試してください。また、相手側機器との間に、壁や床、金属製の家具などがあると、通信に影響することもあります。

● 電子レンジや医療機器から離して使用する

電子レンジが調理に使う電磁波と、無線LANが使用する周波数が近いため影響が出てしまいます。

● パソコンの向きを変えてみる

パソコンの向きを変えると本製品のアンテナの向きも変わり、電波が入りやすくなることがあります。

● 設定を変更してみる

Ad-Hoc (アドホック) モードのときは、チャンネルを変更すると通信が安定することがあります。このほかネットワークの設定変更も試してください。

### ■通信速度が遅い

**メモ** 通信速度や通信距離を確保するための情報をこのPARTの「より安定した通信をするには？」で紹介しています。あわせてご覧ください。

● 通信相手側機器との距離を確認してください。

通信相手側機器との距離によって、通信速度が大きく変わることがあります。

● 電子レンジを使用していませんか？

電子レンジで使用される電磁波は、無線LANで使用される周波数に近いため、無線LANに影響を与えることがあります。

5

63

### ●無線を利用した家電を使用していませんか？

2.4GHzの無線を使用した家電（液晶テレビやオーディオ機器など）は無線LANで使用される周波数に近いため、無線LANに影響を与えることがあります。

### ●複数台のパソコンで、無線LANを使っていませんか？

無線LANで接続されているパソコンが多くなると、それぞれの通信速度が遅くなります。アクセスポイントに接続するパソコンの台数を減らしてみてください。

### ■「マイネットワーク」に他のパソコンが表示されない

「マイネットワーク」の「ローカルネットワーク」に他のパソコンが表示されない場合は、現在設定中のパソコンが属している「ワークグループ」または「ドメイン」が他のパソコンと一致していない可能性があります。詳しくは、パソコンメーカーにお問い合わせください。

#### ●Windows XP の場合

- 1 [スタート]－「マイコンピュータ」の順にクリックします。
- 2 画面左の「システムのタスク」にある「システム情報を表示する」をクリックします。  
「システムのプロパティ」が表示されます。
- 3 「コンピュータ名」タブをクリックして、「変更」をクリックします。
- 4 「コンピュータ名の変更」から、表示したいパソコンと同一の「ワークグループ」または「ドメイン」を設定します。

#### ●Windows 2000 の場合

- 1 デスクトップの「マイコンピュータ」を右クリックして、「プロパティ」をクリックします。

- 2 「ネットワークID」タブをクリックして、「プロパティ」をクリックします。「識別の変更」ウィンドウが表示されます。ここで、表示したいパソコンと同じ「ワークグループ」または「ドメイン」を設定します。

#### ●Windows Me/98 SE の場合

- 1 [スタート]－「設定」－「コントロールパネル」の順にクリックします。
- 2 「ネットワーク」をダブルクリックします。
- 3 「識別情報」タブをクリックします。「識別情報」タブの画面が表示されます。ここで、表示したいパソコンと同じ「ワークグループ」または「ドメイン」を設定します。

### ■ホットスポットサービスを利用するには？

ホットスポットのサービス提供形態はさまざまで、無料で公開されているもの、会員制で手続きが必要なものなどがあります。「DHCPを使う」「ESSIDはANYまたは空欄」が一般的な設定です。詳しくはホットスポットの管理者などにお問い合わせください。

**メモ** 不特定多数に向けてサービスされている「ホットスポット」は、便利な反面、セキュリティ上の問題も考えられます。次のような方法で対策をしてください。詳しくは、Windows、各ソフトウェアの取扱説明書やヘルプをご覧ください。

- ・ファイルやフォルダを共有しない
- ・ファイルやフォルダにパスワードを設定する
- ・ウイルス検出ソフトやファイアウォールソフトを組み合わせる

5

# 付録

## 用語集

### A ~

#### ●AES(Advanced Encryption Standard)

米国商務省が暗号化標準技術として承認した暗号規格。TKIPより強固な暗号化を施すことが可能です。

#### ●EAP(Extensible Authentication Protocol)

ユーザ認証の際に使用するプロトコルです。EAP-MD5(EAP Message Digest Algorithm 5)、EAP-TLS(EAP Transport Layer Secure)、EAP-TTLS(EAP Tunneled-TLS)などがあります。

#### ●eXtended Range(XR)

アセロス社が開発した、無線LAN通信範囲を拡大する技術です。本機能を搭載した無線LAN機器同士の接続と非搭載機種で比較した場合、屋外見通し距離で通信距離を最大で2倍の約800mまで長距離化できます。通信範囲を拡大することにより、これまで信号が微弱の場合には接続できなかった、アクセスポイントから離れた地点、あるいは、壁などに遮られて死角となっていた地点でも安定した接続を確立することができるようになります。

#### ●IEEE802.11b

無線通信規格の一つで、2.4GHzの11Mbpsの規格を持ちます。現在多くの製品に導入され普及しています。

#### ●IEEE802.11g

無線通信規格の一つで、2.4GHzの54Mbpsの高速通信に対応しています。従来のIEEE802.11bと互換性を持ちます。

#### ●LEAP(Lightweight Extensible Authentication Protocol)

Cisco Systems社独自の認証規格です。

#### ●Open System

ワイヤレスネットワークの標準を策定する業界団体「Wi-Fi Alliance」が提唱するWEPの暗号化規格です。

#### ●PEAP(Protected EAP)

任意で設定されたIDとパスワードで認証します。Microsoft社の PEAP-EAP-MSCHAPV2やPEAP-EAP-TLSがあります。

#### ●RADIUS(Remote Authentication Dial-in User Services)

アクセスポイントと認証サーバの間で認証情報をやりとりする際に使用するプロトコル(言語)です。認証サーバをRADIUSサーバと呼ぶこともあります。

#### ●Shared Key

WEPの暗号化規格の一種です。

#### ●TKIP(Temporal Key Integrity Protocol)

一定時間ごとに暗号キーを変更する暗号化プロトコルです。

#### ●WEP(Wired Equivalent Privacy)

ワイヤレスネットワークの標準を策定する業界団体「Wi-Fi Alliance」が提唱する暗号化規格です。無線通信のセキュリティ設定の一つで、通信内容を暗号化し、通信の解読を防ぎます。

#### ●WPA(Wi-Fi Protected Access)

ワイヤレスネットワークの標準を策定する業界団体「Wi-Fi Alliance」が提唱する暗号化規格です。無線のセキュリティ設定の一つで、暗号化プロトコル(TKIP)を使って通信内容を暗号化し、一定時間ごとに暗号を更新します。そのためWEPよりも解読がされにくくなります。企業内向きのWPA-EAP(エンタープライズ)と一般家庭向けのWPA-PSK(パーソナル)の二種類があります。

●WPA-EAP(WPA-Enterprise)

企業などの大規模なネットワークに適したWPA規格です。RADIUSサーバと認証キーをやりとりする802.1x認証を使用し、セキュリティを強化します。

●WPA-PSK(WPA-Pre-Shared Key)

一般家庭向けのWPA規格です。ユーザが任意で設定した認証キーに基づいて通信内容を暗号化し、TKIPを使用し、通信データの暗号化を一定時間ごとに更新します。

●802.1x認証

RADIUSサーバとアクセスポイントの間で接続したユーザを認証する機能です。RADIUSサーバに登録された正しい認証キーでアクセスしたユーザのみアクセスの認証を行います。

あ～

●認証サーバ

企業などのローカル環境でユーザ認証をコントロールするサーバのことです。RADIUSサーバとも呼ばれます。

製品仕様

製品名	CG-WLCB54GSF	
PCインタフェース	PC Card Standard(Card Bus)Type II 準拠	
無線部	サポート規格	国際規格:IEEE802.11g,IEEE802.11b,IEEE802.11 国内規格:ARIB STD - T66
	転送方式	IEEE802.11g:OFDM(直交周波数分割多重変調方式) IEEE802.11b:DS-SS(直接拡散型スペクトラム拡散方式)
	アクセス方式	CSMA/CA
	転送レート	IEEE802.11g:54/48/36/24/18/12/9/6Mbps IEEE802.11b:11/5.5/2/1Mbps
	セキュリティ	WEP(64/128/152bit) WPA方式 EAPエンタープライズ(IEEE802.1x認証) WPA方式 PSKパーソナル TKIP(WPAの設定内を含む) 802.1x - WEP(WEP static非対応)
	アンテナ形状/形式	PCBアンテナ/ダイパシティブ
	周波数帯域(中心周波数表示)/チャンネル数	IEEE802.11g/b:2.412GHz~2.472GHz/1~13ch
	対応モード	Infrastructure / Ad - Hoc
	ローミング	サポート
電源部	動作電圧	DC 3.3V
	最大消費電力	1.8W
環境条件	動作時温度/湿度	温度:0~40℃/湿度90%以下(ただし結露なきこと)
	保管時温度/湿度	温度:-20~60℃/湿度95%以下(ただし結露なきこと)
取得承認	VCCIクラスB、技術基準適合証明	
外形寸法	54(W)×119(D)×6(H)mm(アンテナ部含む) (突起部54(W)×34(D)×6(H)mm)	
質量	40g	

付録

## 工場出荷時の設定

本製品は、工場出荷時は以下の設定となっています。

通信モード	Infrastructureのみ
周波数帯域	802.11b/g-2.4GHz
ESSID	corega
暗号化	無効
eXtended Range	無効

## 本製品のお問い合わせについて

本製品のお取扱方法に関するご相談は、NTT通信機器お取扱相談センタへお問い合わせください。

NTT通信機器お取扱相談センタ

お問い合わせ先  0120-109217 トークンフリー

## おことわり

- ・ 本書は、株式会社コレガが作成したもので、全ての権利を弊社が保有しています。株式会社コレガに無断で本書の一部または全部をコピーすることを禁じます。
- ・ 予告なく本書の一部または全体を修正、変更することがあります。ご了承ください。
- ・ 改良のため製品の仕様を予告なく変更することがあります。ご了承ください。
- ・ 本製品の仕様またはそのご使用により発生した損害については、いかなる責任も負いかねますのでご了承ください。

©2005 株式会社コレガ

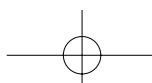
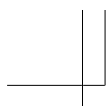
corega は、株式会社コレガの登録商標です。

Microsoft®およびWindows®は、米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他、この文書に掲載しているソフトウェアおよび周辺機器の名称は各メーカーの商標または登録商標です。

2005年6月 初版

付録



### セキュリティ設定控え

ESSID	
セキュリティ方式	
認証方式	
暗号方式	
WEP暗号強度	
暗号化キー1	
暗号化キー2	
暗号化キー3	
暗号化キー4	
デフォルトキー	

